

世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 大会報告書

約 1,000 名の来場者、関係者を迎え、興奮と感動に包まれながら大盛況のうちに終了！
2021 年 12 月 5 日（日）午後 1 時より大阪国際会議場 5 階メインホールにて『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』（<https://cancer-zero.com>）が開催され、今大会で通算約 6,400 名の皆様がお来場されました。
以下は、世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA 当日のご報告です。

オープニングでは、会場のスクリーンに『2019World Alliance Forum in San Francisco』の映像が紹介され、大会長 原丈人氏による力強い開会宣言で開幕致しました。



大会長 原丈人氏

開会式では岸田文雄内閣総理大臣の代理として大会長の原丈人氏が代読。岸田総理ご本人からのビデオメッセージも放映。



次に厚生労働大臣 後藤茂之氏の代理として厚生労働省医務技監 福島靖生氏のビデオメッセージ。



厚生労働省医務技監 福島靖正氏

そして前内閣総理大臣補佐官の和泉洋人氏に続き、大阪府知事 吉村洋文氏は「今回のサミットは日米だけでなく、世界各地と連携を取り、世界に向けた発信の場としてこの大阪を選んでくださり感謝します。このサミットで披露される知恵が、がん撲滅に向けた挑戦の大きな契機となることを期待します」とご祝辞を述べられました。



さらに米国を代表して臨床試験の国際的リーダーで、がん医療の世界的権威であるシカゴ大学プレジジョン医療研究センター長のマーク J. ラティン教授から日米及び世界との連携を呼びかけるメッセージをいただきました。日本と時差が 15 時間あるにもかかわらず、リモートでご参加くださいました。

これに続いて、茂松茂人氏（一般社団法人大阪府医師会会長）、松本正義氏（公益社団法人関西経済連合会会長）、『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』特別顧問・元厚生労働事務次官 二川一男先生から激励並びにご祝辞をいただきました。



大阪府医師会会長 茂松茂人氏



関西経済連合会会長 松本正義氏

作用による体力負担も減らすことも可能となるでしょう」とラティン教授はこう語り、効果のある薬剤が平等に手にすることができるよう工夫と戦略が必要だ、との見解を示してくださいました。



シカゴ大学プレジジョン医療研究センター長・教授
マークJ.ラティン氏



元厚生労働事務次官 二川一男氏

次に、日本からは厚生労働省医務技監 福島靖正氏の「がん対策加速化に向けて 2021」と題した事前収録講演、そして前内閣総理大臣補佐官、内閣官房健康・医療戦略室前室長 和泉洋人氏による「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦 2021」。



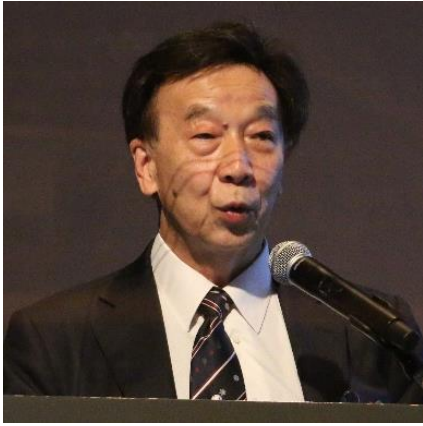
前内閣総理大臣補佐官 和泉洋人氏

さらに、ご来賓として松浦成昭氏（大阪国際がんセンター総長）、中村祐輔氏（シカゴ大学名誉教授・東京大学名誉教授）、坂口志文氏（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授）、西澤良記氏（公立大学法人大阪初代理事長）、荒川哲男氏（大阪市立大学学長）、近藤昭彦氏（神戸大学副学長）、『世界がん撲滅サミット 2021 in OSAKA』顧問で株式会社エフ・アール・シー・ジャパン代表取締役社長 清水美博氏のご紹介。

戦略講演として、原丈人氏の大会長講演「がん撲滅・世界連携最前線 2021」、マーク J.ラティン教授の米国代表講演「米国が描くがん撲滅戦略 2021」がリモートで行われ、参加者の皆様は、新規薬剤の医療費の高騰問題、少量でも効果のある抗がん剤治療等、世界最先端のがん研究のご講演内容に、熱心にメモを取っていらっしゃいました。

「今、アメリカではがん患者が治療費として支払う全体の約 2 割は診療費に、残りの 8 割は薬剤費に充てられています。低用量化が実現すれば、コスト削減や副

続いて、「ノーベル賞級講演 I」として、昨年『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』を受賞されました中村祐輔氏の「日本のがん医療革命最前線」が行われ、このなかで「がんという個人差が激しい多様な病気への治療体制が過度に標準化されており、今後はゲノム解析による個々人に合わせたオーダーメイド治療を推進しなければならないが、問題はコストで、現在、ひとりのゲノム解析に 300 万円かかるところを、将来的に 5 万円に抑えていくことが目標だ」との見解を示してくださいました。



がん研究会プレジジョン医療研究センター所長
シカゴ大学名誉教授・東京大学名誉教授 中村祐輔氏

その後、「アジア代表講演」としまして世界の医療界のトップリーダーである香港中文大学医学部部長・教授 フランシス・チャン氏に「生活習慣病の克服に向けた逆転の発想～マイクロバイオーマとは何か？」の講演をいただきました。腸内細菌叢の研究に対して、会場の注目が高まりました。



香港中文大学教授 フランシス・チャン氏

10 分間の休憩時には追悼スライドを放映。

続いて「EU 代表講演」としまして 2019 年の欧州臨床腫瘍学会会長で、肉腫等の希少がんを含む世界のがん医療の権威、フランス・レオンベラルセンター教授ジャン＝イヴ・ブレイ氏より「EU 及び世界のがん治療最前線」というテーマで事前収録による講演をいただきました。



仏レオンベラルセンター教授 ジャン＝イヴ・ブレイ氏

次に、「日本代表講演」として河田則文氏（大阪市立大学大学院医学研究科医学研究科長・肝胆膵病態内科学教授）より「がん撲滅に向けた肝胆膵治療最前線」、そして「ノーベル賞級講演Ⅱ」として『ガードナー国際賞』を受賞された坂口志文氏より「制御性 T 細胞によるがん予防薬開発最前線」のご講演をいただきました。河田氏によると大阪は全国で一番肝臓がんが多いとのこと。また坂口氏は、経口薬によるがん予防薬研究の内容をご講演いただき、がん医療の未来に希望を持てる内容でありました。



大阪市立大学大学院医学研究科医学研究科長・肝胆膵病態内科学教授
河田則文氏



大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
坂口志文氏

そして、本サミットの目玉企画であり、医師と来場者との真剣勝負ともいえる公開セカンドオピニオンが実施。様々ながん治療分野のリーダー10人とリモートでご参加いただいた藤原先生の11人がステージに登壇。ご参加いただいたがん患者やご家族等から熱心な質疑応答が行われました。

司会進行を務めた、代表顧問・提唱者の中見利男氏も、質問者の意をくんで、担当の先生だけではなく、他の先生のご意見も余すことなく聞き出し、質問者が本当に納得・安心するまで司会を遂行。



司会進行 代表顧問・提唱者 中見利男氏

先生方も、患者・ご家族に寄り添ったご回答で、親身に、できるだけわかりやすく説明されました。現在のがん研究・がん医療の技術は5年前10年前とは比べ物にならないくらい進化しており、どうかあきらめずに頑張してほしいとの激励があつて、会場は大きな拍手に包まれました。最後には先生方からも、全国のがん患者の皆さんに対してのエールの拍手が贈られ、今年のセカンドオピニオンが終了しました。



公開セカンドオピニオン終了後、原丈人大会長による『世界がん撲滅大阪宣言 2021』が発表され、会場は熱気と鳴りやまない拍手に包まれ、サミットは最高潮に達しました。

原大会長は、米国の思想家エルバート・ハバードの『挑戦をあきらめてしまうこと以外に敗北などない』という言葉と、セネカの格言『難しいからやろうとしないのではない。やろうとしないから、難しくなるのだ』を引用し、がんを撲滅する未来へ向かって挑戦し続けること高らかに宣言しました。



また『世界がん撲滅大阪宣言 2021』では、すでに相談業務や調査を担当している大阪の PMDA 関西支所に再生医療、細胞医療、遺伝子医療、医療機器等の審査機能を新しく付与することで、2025 年大阪・関西万博のレガシーにしていくための『大阪 PMDA 機能強化策』を提言していくなど、従来にない方策でがん撲滅の動きを今後益々活性化させて参ります。

2022 年は『世界がん撲滅サミット 2022 in OSAKA』が 2022 年 11 月 3 日（祝・木）午後 1 時より大阪国際会議場にて開催されます。いよいよ世界各国が力を合わせてがん撲滅の運動を広げて行きます。引き続き皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。

大会 HP (<https://cancer-zero.com>)。

写真は大会公式カメラマンのすい臓がんサバイバー高村僚氏撮影。執筆協力として北岡優希氏にご協力いただきました。ありがとうございました。